

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 11 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572208916号
法人名	有限会社 エルアイズコーポレーション
事業所名	グループホーム水沢の里
所在地	八峰町峰浜水沢字三ツ森カッチキ台3-1 (電話) 0185-70-3238
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年9月28日

【情報提供票より】 (平成21年8月31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 26 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 (常勤 7 人 非常勤 1 人 常勤換算 4.9 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 74 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平野医院
---------	------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「安心・安全」を理念に掲げ、毎日のコミュニケーション、利用料金、生活空間、精神的な支援など様々な面での支援を意味しており、「その人らしい生活」の実現に向けて職員間で理念を検討している。
 そのため、外部評価結果を真摯に受け止め、何より利用者の安心・安全な生活を支援するため、楽しく過ごせるよう職員一丸となってケアに取り組んでいる。
 事業所は住宅地の旧庁舎跡の向かいにあり、明るく静かな環境のなか、ごく普通の民家として地域に溶け込んでおり、車イス用のトイレを地域に開放するため看板を掲げ、空床利用型のショートステイの許可申請を予定しているなど、地域の一員として貢献したいと意欲的である。
 今後は、地域密着型サービスとして役割・機能を再確認するとともに、利用者と地域との関わりを大切にしながら地域のニーズ把握に努め、そこから効果的な事業所運営及びサービスにつなげてほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員間で理念を話し合ったり、危険物の保管方法を徹底しているほか、各居室入り口の顔写真についても配慮がみられ、利用者の状態や希望に合わせた新たな目印について検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	ある程度経験を積んだ職員が自己評価を行い、事業所としての評価をまとめ、日々の業務の振り返りを促しながら気づきの機会としており、職員全員が同じ目線に立ち、意識や技量の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	委員の日程調整や検討内容が難しく定期的に開催できていないため、今後は多方面からの参画を得るとともに効率的な開催方法を検討し、事業所の状況報告や課題の提起などを行い、会議の機能を再認識しながら継続して開催することを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置しているほか、管理者の連絡先を公表して相談や苦情等に対応できる仕組みを整えている。 今後は、定期的な意向調査などから利用者及び家族の声を把握するなど、前向きな取組みを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の学校祭や老人福祉施設の夏祭りなどに招待され参加しているほか、歌や踊りのボランティア訪問などもあり、利用者のプライバシーに配慮しながら地域との交流を図っている。 また、車イス用のトイレを地域に開放していることから、事業所の機能を積極的にアピールしながら地域への貢献に努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	正面玄関に方針・目標を具体化したものを貼付しており、スタッフが意識づけ出来るようになっている			職員が利用したい事業所との視点で安心・安全なサービス提供を理念に掲げ、利用者の心身面や経済面など多面的な意味での「安心・安全」をめざしている。 また、今年度に職員間で検討を重ね「その人らしい生活」の実現に向けて理念を追加している。	○	利用者にとっての「安心・安全」を確立するため、利用者と地域との関わりを理念に盛り込み、地域密着型サービスとしての理念をさらに検討してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議の際に理念に基づいて思案し指示している。			玄関に理念を掲示し、毎月の全体会議や毎週のミーティングで日々の言動や対応について振り返り、安心・安全の確保に向けて理念を共有し、日々の実践につなげている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	町内の行事や催しの時に参加し、作品の出品などでホーム内の行事もわかる取り組みをしている。					
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	昔ながらの習慣で物々交換などを行っている。今年は町内の方々と食事会を予定している。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の人達との交流に努めている。			自治会に加入し、町内のラベンダー祭りや中学校祭、地域の特別養護老人ホームの夏祭りなどに招待され参加している。 また、歌や踊りのボランティア訪問などもあるほか、車イス用のトイレを地域に開放して機能を還元している。 奇声を発する利用者で近隣から苦情があった際は、謝罪のうえ事業所の機能や支援の経過を説明して理解を得ている。	○	招待された行事には参加しているが、事業所側からは個人情報保護の関係で消極的になっているため、社会福祉協議会など他機関とのネットワークを構築しながら地域の資源を把握し、積極的に交流を図ることを期待したい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行事ごとなどを通じて事業所の活動をアピールし、居宅介護の相談などに行っている。車椅子用トイレの標識を立てて誰でも気軽に利用できるようにしている。					
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の業務において基本に戻るため、定期的に見直しの実施をしている。			ある程度の業務経験がある職員を中心に自己評価を行い、業務の振り返りを促しながら現在の介護レベルを自覚し、事業所としての自己評価を行っている。 また、利用者の安心・安全を確保しているか、馴れ合いがないかなど気づきの機会とし、職員の意識や技量の向上に努めている。	○	前回評価での要改善事項を尊重するあまり、十分に納得しないまま取り組んでいる事項があるため、今後は事業所の方針や考えを明確にしたうえで対応してほしい。 また、経験の有無に関わらず職員全員で自己評価に関わり、事業所全体で取り組むことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価				
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではないが、家族や利用者様初め地域住民や地域包括支援センターなどから寄せられる意見などをスタッフ会議などでサービスの向上にむけ取り組んでいる。	○	日程を決めての開催が地域的な部分も含めてなかなか難しい。	○	運営推進会議の日程調整などが難しく、定期的な開催には至っておらず、今後の課題としている。	○	全員出席や提示内容の具体化など開催を難しくしているため、出席可能な人数で、日頃の事業所の様子や課題、地域の情報など身近な話題で情報交換するなど、定期的な開催につなげてほしい。 また、民生委員や社協職員など多方面からの参画を得ながら機能の充実を図ってほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	解らないところがあれば都度行政と連絡を取り、サービスの向上に努めている。				行政担当職員が隣家に住み、何かあれば相談できる関係を築いており、スプリンクラー設置の必要性について相談する予定である。	○	スプリンクラー設置のほか、下水道の整備や運営推進会議の効率的な開催方法についても相談し、サービスや運営に反映させてほしい。
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県社協などで実施している研修への参加を促している。事務所に資料を置いて活用できるような状態をとっている。						
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて問題点等を出し合って言葉の虐待等、スタッフが気付かないまま使わないように、早期発見し対応している。						
4. 理念を実践するための体制									
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あくまでサービス業なので、利用者や家族に納得がいくよう勤めている。						
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、苦情を受付出来るように管理者の携帯番号を公表している。また、定期的に家族様との面談をしている。						
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホームのお便りを郵便している。個別的な内容に関しては電話にて対応している。				利用者の写真つきで「水沢の里」通信を毎月発行し、行事など事業所全体の状況を知らせている。 また、利用者の様子や健康状態など、面談時や電話等で必要に応じて個別に報告している。	○	事業所全体の報告のほか、利用者一人ひとりの状況を個別に知らせるための方法を工夫し、具体的な情報提供に努めてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	郵便が直接ホームに届く様、ポストを玄関に設置している				玄関に鍵付のポストを設置し、管理者の携帯番号を公表して、常時の相談や苦情等の対応を可能にしている。	○	利用者及び家族の潜在的なニーズを把握するため、定期的に意向調査を実施するなど意見の集約方法を工夫して運営に反映させてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議時に意見交換している。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化にも対応できるように労働基準監督署に36協定を毎年届出している。会社役員も対応出来るようにしている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が運営者でもあるので、その辺りは最新の配慮をしている。			管理者は、新人職員の得意分野や苦手分野を把握し、定期的な面談やミーティング等で育成を図りながら、利用者へのサービスが低下しないよう配慮している。 また、利用者一人ひとりの注意事項や特徴を情報共有一覧表にまとめ、サービスの標準化に努めている。	○	職員の離職が多いことから、離職の要因を改めて分析し、改善を図りながら利用者の負担軽減に努めてほしい。
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもちろんのことではあるが、個々に合わせて受講させている。			職員の経験に合わせて必要な研修受講や資格取得を促進し、目的や考え方を事前に伝えて職員のモチベーションを大切にしている。 また、定期的な会議やミーティングを活用し、研修成果を全職員で共有している。	○	研修計画があるため、さらに職員一人ひとりの目標や希望なども反映し、実効性のある研修計画を作成してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代山本グループホーム協会と県のグループホーム協会に入会し質の向上を目指している。			県と圏域の連絡協議会に入会しており、運営上の課題を提起して他事業所の取り組みを参考にするなど、サービスの向上に努めている。 また、職員が研修等に参加して情報交換を行い、同業者間のネットワークづくりに努めている。	○	管理者のほか職員同士が相互に事業所を訪問し、積極的に交流を図りながら互いのスキルアップにつなげてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別面談の実施や全体での親睦会、社員旅行などで心掛けている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	役割と課題を明示し、成果内容を評価し自信につなげている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時から本人との面談、家族との面談など、信頼関係に必要な取り組みをしている。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	23と同じである。また、認知症の理解も家族とともに学んでいけるようにしている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族とスタッフとの相談の上で、双方に不安が無くなるようにしている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	馴染みがあり使い慣れたものを持ってきていたり、本人の様子をみながら徐々に他利用者との関わり等を促している。				利用にあたってはケアマネ等との連携を密にし、本人及び家族との事前面談や自宅訪問を行い、これまでの生活の様子を把握している。 また、事前の見学により事業所の雰囲気を体感し、生活に馴染みやすいよう支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の話を聞く中から、料理の仕方や娯楽の方法などを教わったりしている。			白玉だんごの作り方や漬物の漬け方を教わっているほか、畑づくりに関しても利用者の経験を生かしている。 また、「きりたんぼ」や「だまこ」づくりをともに行うなど、互いに支え合いながら生活している。	
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪れた際に近況を報告したり、生活状況などをお便りにて毎月送付している。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族がホームに訪れた際には他利用者気兼ねすることなくゆっくりと出来るよう、お部屋で過ごしてもらい良好な関係を築く機会にもらえるよう努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム利用者以外の馴染みの方とも会ってお話が出来るよう受け入れをしている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士コミュニケーションをとれる場を設けている。また、必要時にはスタッフが仲介役となっている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も外出先で会った際など今の状況等の話を聞いたりしている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や家族の情報から希望や思いを聞き出し把握できるように努めている。				家族や知人などから事前に情報収集し、日常生活の関わりからも利用者の不安を感じとり、個別に支援している。 また、入浴時など利用者と一緒に出来る時間を活用し、利用者の意向の把握に努めている。	
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りし得られた情報を把握し、日々のケアに活かせるよう努めている。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を記録に取り、ケアに努めている。					
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向、スタッフの見解等を反映させながら計画作成に努めている。				アセスメントには一部センター方式を活用し、気付きを記録する大切さを共有している。 また、計画作成にあたっては必ず介護員の意見を確認し、全体会議やミーティングなどで利用者の情報を共有のうえ検討している。	
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行なう他、状態変化時にはその時の状態に応じた見直しを行い新たなケアプランの作成に取り組んでいる。				定期的なモニタリングにより3か月毎に計画を見直し、職員の気づきや利用者の状態変化があれば期間内でもその都度見直している。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、申し送り等で情報を共有し、介護計画の見直しを行なっている。					
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な範囲で本人及び家族の希望・要望に応えられるよう努めている。			事業所の車イス用トイレを自由に使用できるよう看板を掲げて開放しているほか、利用者の通院支援や認知症介護の相談など柔軟に対応している。 また、空床利用型のショートステイとして許可を申請予定であり、今後の利用につなげたいと意欲的である。	○	運営推進会議や地域との交流の場で認知症介護等に関する地域のニーズを掘り起こし、そこから新たなサービスや機能を還元できるよう積極的に取り組むことを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	ボランティアなどは随時受け入れをしている。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターや居宅介護事業所に連絡を取り、情報交換や他のサービスの利用等の支援に努めている。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	41番と同様に取り組んでいる。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者または家族と相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。必要時、往診してくれる医療機関（嘱託医・歯科医）もある。			利用前のかかりつけ医を継続して主治医としており、定期受診の際は家族と相談しながら職員が同行している。 また、協力医や歯科医による往診もあり、医療機関と連携しながら健康管理に努めている。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と相談しながら日々の様子を記録・報告し、その人にあった服薬方法や治療が受けられるよう支援している。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	HPや他施設の看護師と連絡が取れ、気軽に相談することが出来、常に健康状態に留意している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはホームでの生活状況等を申し送り、早期退院に向け医療機関と情報交換を行なえるように取り組んでいる。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対し、受診時主治医に報告・相談し家族へ報告、今後について相談している。看取りについては家族の要望があれば主治医と連携を取りながら出来る範囲で行なう。			利用者の状況や希望に添えるよう可能な限り関係者と連携を図り、家族から「緊急時対応に関する同意書」をとるなど、協力医からも理解と協力を得られた場合は看取りを対応している。	○	事業所としての方針を職員間で共有し、看取りに関する同意書やマニュアルを作成するなど、組織としての体制整備に努めてほしい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期による苦痛の緩和に配慮しながら、主治医との連携を図り状態の悪化や救急時の対応（入院の必要性・看取り等）の検討に取り組んでいる。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退所の前後には家族や本人に関わる関係者と情報交換や話し合いを行い、本人の不安の軽減に努めている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いに配慮しながら、利用者それぞれに合わせて声掛けを行なっている。記録等個人情報の取り扱い・管理も気をつけている。			何気ない仕草や声かけでも、時には相手を傷つけたり威圧的になることを理解し、言葉の持つ力を常に意識しながら接しており、奇声を発する方にも抑制することなく対応している。 また、個人情報を記載しているファイル等の記録物はキャビネットに保管し、施錠して管理している。	○	居室の目印については、利用者一人ひとりの認知度や好みを把握し、写真や装飾品など利用者に合った工夫を期待したい。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションをとるのが難しい利用者でも出来るだけ希望・要望を聞きだせるように、また、自己決定できるように働きかけをしている。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを配慮・優先し食事や離床、入浴等を行なっている。体操なども声を掛け参加を促すものの、参加するかどうかは個人に任せている。			起床や食事の時間は利用者の気分や体調に合わせており、バイタルを確認しながら利用者の過ごし方を尊重している。 また、利用前の不規則な生活習慣を理解し、尊重したうえで規則正しい生活ペースへの移行を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴時や外出時等、気候に合っているかを確認しながら、自分で選んでもらっている。理・美容は本人希望時や必要とスタッフが感じた時に促している。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなものを献立に取り入れたり、ホームの畑で収穫してきた野菜を調理している。調理の下ごしらえや後片付けなど一緒に行なっている。			日常の会話などから利用者の嗜好を確認し、季節や旬を味わえる献立に努めており、利用者によっては配膳や下膳なども職員と一緒にしている。 また、食卓に季節の花を飾ったり、事業所の畑で収穫した野菜を食材に活用しているほか、時に外食の機会も持ち、利用者が食事を楽しめるよう配慮している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が好むおやつや飲み物をお茶の時間やおやつ時間に提供し楽しんでいただいている。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	定期的にトイレ誘導・確認を行なっている。その際、羞恥心・プライバシーに配慮し気持ちよく排泄してもらえるようにしている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックを行い健康状態を確認、ゆっくりくつろいで入浴できるようにしている。			現在は入浴日を決めているが、時間帯や頻度を利用者の希望に合わせて柔軟に対応できるように試験的に検討中である。 また、入浴時間を利用者向き合える貴重な時間と捉え、意向を確認しながら同性介助や声かけを行い、温泉にも出かけている。	○	入浴の時間帯や曜日を検討中のため、様々なパターンを試しながら、利用者の選択肢が広がるような体制づくりを期待したい。
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後や入浴後、外出後などには休んでいただくようにしている。就寝時間は利用者のこれまでの生活習慣に任せている。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下膳や洗濯物たたみ、畑の世話など利用者の負担にならないよう、楽しみながら行なってもらっている			利用者の生活歴を生かし、料理や畑づくり、洗濯物たたみなど無理強いすることなく、利用者のペースで行えるよう支援している。 また、大きな万年カレンダーを利用者が作成したり、温泉や外食なども取り入れながら生活にメリハリをつけている。	○	利用者の持つ力を引き出し、これまでと異なる趣味や役割を見出すなど、利用者の求めに応じて柔軟に支援できるよう今後の取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は希望によっていくらかのお金を所持し、外出時や希望時に欲しい物を購入できるようにしている。お金を所持していない利用者に関しては立て替えにて購入している。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	見守り・付き添いをしながらホームの畑や花壇を見たり町内を散歩したりしている。			祭りの見学や花見、回転寿司や温泉など季節や利用者の希望に合わせて外出の機会を設けている。 また、帰宅や外出を望む方には職員が寄り添いながら散歩するなど、日常的に外出を支援している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や温泉、外食などを企画し出掛けている。また家族支援の1つとして外出（温泉・外食など）に連れて行って頂いている。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号が分かり自分で掛けることの出来る方には自分で掛けていただき、掛けられない場合にはスタッフが代わりに行なっている。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の訪問時にはお茶などを飲みながらゆっくりと会話していただけるよう、利用者のお部屋に案内し過ごしていただいている。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束をしないケアを理解している。家族にも説明している。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関のドアにセンサーをつけ、ドアが開くと分かるようにしている。安全義務として、施錠は夜間のスタッフが独りになる時間帯に行なっている。			日中は玄関に施錠せず、センサーにより利用者の外出を把握しており、見守りや付き添いなどで利用者の安全確保に努めている。	○	利用者の安心・安全のため、近隣住民に積極的に理解と協力を呼びかけ、地域全体で利用者を見守る体制づくりに努めてほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、お部屋で休んでいる利用者は時間をみて訪室・確認、夜間も定期的に巡視・確認している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は利用者の手の届かない所や目につきにくい場所で保管している。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事・服薬時は見守り・確認を行なっている。また歩行時にも見守りし、必要時には付き添いをしている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	緊急時の対応方法など、勉強会を行なっている。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時、利用者を安全に避難出来る様消防署立会いにて避難訓練を実施している。			数年前に向かいの庁舎で火事があり、災害に対する意識は高く、緊急災害時の連絡網を整備し、年2回の避難訓練を消防署の立会いのもと実施している。 また、飲料水や非常食等の備蓄、ガスコンロなど緊急災害時に備えており、スプリンクラーの設置についても検討している。	○	非常用設備の検討とともに、夜間を想定した訓練の実施や、近隣住民が参加しての訓練実施など、より安心・安全の確保に向けた働きかけを期待したい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒や病的に考え得ることなど、家族の面会時や電話にて伝え、今後どのような状態が考えられよう対応していくか話している。					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	声掛けをしながら表情や体調の確認をし、普段と異なる状態に気付いたら管理者並び他スタッフへ申し送る。また毎朝バイタルチェックを行い、チェック表へ記入、各自が確認できるようにしている。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状に目を通し、どういった効果があるのか、注意点はどんなことか等を確認し把握に努める。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く取ってもらえるよう声掛けにて促す。排泄時、腹部マッサージにて刺激を与えたり繊維質の多い食材を料理に取り入れている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、自分で出来る方には声掛けしうがい等の口腔ケアを促す。自分で出来ない方には介助で行なう。義歯は夕食後に義歯洗浄剤につける。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を確認、チェック表に記入している。食事以外に10時・15時に水分補給の時間を設け、水分摂取に努めている。スタッフがカロリー計算できるように訓練している。			利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を毎日記録し、職員間でカロリー計算など栄養に関する勉強会を行い、栄養や口腔ケアについての知識を高めながら利用者の体調管理に努めている。	○	地域の特別養護老人ホームや病院と連携がとれていることから、定期的に栄養士からチェック、指導してもらうなど、栄養バランスが偏らないよう地域資源を活用しながら工夫してほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗いやうがい、定期的に窓を開け空気の入替えを行なっている。県HPから資料をダウンロードして周知している。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前には手洗いを行なっている。まな板などの調理器具はハイター消毒している。必要なもののみ買い出しし新鮮で安全な食材の使用に努めている。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関へと続くスロープの脇に草花（プランター）を置くことで、一般家庭のような雰囲気を作り親しみやすい環境を目指している。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはアレンジフラワーを飾り、居間には花壇から摘んだ季節の花や利用者やスタッフが一緒に作ったかかれんたーを飾るなどして季節を感じながら心地良く過ごせるように工夫している。			天井は吹き抜けで明るい空間となっており、手づくりの万年カレンダーや花を飾り季節感を取り入れている。 また、全館バリアフリーで畳のスペースもあり、トイレにはトイレトペーパーのほか落し紙も用意している。	○	利用者の安心・安全を確保する反面、生活用品も少ないため、利用者の居住空間について改めて検討し、生活感のある快適な環境づくりに努めてほしい。
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースを設け、利用者が自由に横になってくつろいだり会話を楽しんだり出来るようにしている					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みのものを持参していただいたり、本人が使い勝手の良いように配置するように配慮している。亡くなった夫の写真を持参し毎朝ご飯をお供えしている利用者もいる。			居室にはテレビや布団、位牌など大切な私物を自由に持ち込み、利用者一人ひとりの生活空間をつくらせている。	○	トイレや居室の間違い、利用者間のトラブル防止のため、のれんを下げて分かりやすくするなど工夫が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日に数回、換気を行なっている。温度調整は利用者に合わせて行なっている。					
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・廊下・浴室に手すりを設け、移動時など転倒等のないように、また浴室やトイレにも手すりを設け、安定した立ち上がりが行なえるよう配慮している。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレに目印をつけるなどして各人の残存機能を活かしながら生活を送れる環境づくりに配慮している					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日にはホームの外に出て花壇に水遣りをしたり、畑で野菜の世話をしている。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)